

- さあ、夏季休業！
- 共通テスト関連日程の確認
- 高大連携模擬講義(報告)
- オープンキャンパス等への参加

「引き出しを増やそう」

副校長 塚田 雅人

日本では文系・理系という分類が一般的で、多くの高校で2・3年生の段階でどちらかの選択をすることになります。この文系・理系という考え方は日本独特の考え方なのです。

米国在住の知人に聞いたところ、「アメリカの高校では選択分けはないし、大学でも3年生になる頃までに卒業時の専攻を決めればよい感じだ」と言われました。入学時に専攻を決める日本の大学入試制度の上では、どうしても必要で便利な考え方が文理分けなのでしょう。自分の得意科目をグループ分けする時にも使いやすいですし、先生方も科目選択や受験指導をするときに役立てています。

さて、皆さんは不得意科目に対して「自分は理系だから古典はちょっと」とか、「文系だから数学は点が取れない」とか言っていませんか。もっとも、実は私も偉そうなことは言えません。高校時代に「理系だから古典はダメなんだよね」と言っていました。

科目によって得手不得手があるのは当然ですが、文理分けが行き過ぎると「自分は理系だから文系科目は捨てていいや」なんてことになってしまいます。

でも、本当にそれで良いですか。

例えば心理学を学ぶのは「文学部心理学科」だったりします。よく言われていることなので知っている人も多いかと思いますが、心理学を学ぶ上で必要になるのは統計学、つまり数学です。同様に経済学でも数学が必要になります。

「理系なら文系の科目が必要になることはないよ」と思うかもしれませんがどうでしょう。私は大学入学時には技術者志望でしたが、途中で教員志望に変わりました。教員になるとクラス生徒の論文や志望動機の添削をする必要に迫られました。また、先述のアメリカ在住の知人が(留学生や海外在住者であるあるですが)「日本にいた(高校生の)時に、もっとまじめに日本史や地理を勉強しておけばよかった」と言っていました。

しばらく前に職員室で大学入試の英文読解問題について話した時に、ある先生が「(英語の長文読解問題は)日本語にするとそんなに難しい内容ではなく、いろいろな題材をテーマに各大学が自校の特色を出しながら問題文(英文)を作っている。だから、その題材についての知識があれば内容自体はおおよそ予想がつくので(知識の)引き出しが多い方が有利」と言っていました。

新宿高校の校是、「全員指導者たれ」。指導者になると多くの人とのコミュニケーションが必要になります。コミュニケーションの幅を広げるためには多くの引き出しが必要です。この先「受験科目の勉強だけで手一杯」になってしまう時もあると思いますが、色々なことに興味をもってください。そうすると受験に役立つだけでなく、人生の彩りも豊かになります。



○ さあ、夏季休業！

夏休みです！！ ほっと一息、のんびりと、と言いたいところですが、1年生と2年生は部活動や朝陽祭準備、そして3年生は勝負の夏となります。昔から「夏を制する者は受験を制す」と言われるほど、受験生にとっては貴重な40日間。悩んだり迷ったりすることもあるでしょうが、まずは前進あるのみ。なり振り構わず、やるべきことに集中しましょう。

□ 学習のアドバイス

学習面では、次のことがらに注意してください。

◇1年生は…

1学期の学習成果としっかり向き合います。特に理解が浅い科目や分野については、基本に戻って丁寧に復習すること。借金を抱えたままだと、それが2学期以降に新たな借金を生む原因となってしまいます。入学以降の学習内容がまだ限られている今だからこそ、徹底的に弱点の克服と基本の定着を図りましょう。

◇2年生は…

皆さんが目指している大学で要求される主な力は、記述力と応用力。身に付けた知識をきちんと消化し、その確かな知識力を活用して、思考し、表現するという力が求められます。これらは、今進められている大学入試改革でも求められている能力です。一問一答のクイズのような問題ではなく、骨のある問題、歯ごたえのある問題に取り組み、ねばり強く思考することを、是非この夏に経験してください。そこで…

*学習計画は意地でも実践する。(たとえ部活動があっても、何があっても、毎日机に向かう。)

*学校の講習などは、自分の学習リズムを築くために活用する。(講習参加が目的ではない。学ぶ主体は自分自身。)

*1、2年生で仕上げておくべきことはやっておく。後回しにしない。そのための夏休みと位置づけて弱点克服に努める。

*土台づくり。頭と心を耕すためにも、とにかく読書。「進路のしおり」に紹介してあるものを中心に、新書を3冊は読み切ろう。

◇3年生は…

5月に実施した河合塾の全統記述模試の結果分析から、この夏に取り組むべき課題は見えてはいます。まさに「一期の境こなり」(『風姿花伝』)という決意をもって取り組んでください。

志望校の合否判定で、たとえE判定であったとしても、今はまだ気にする時期ではありません。秋の模試までずっとE判定だったのに、本番で合格する生徒は毎年大勢います。早く諦めたり早く志望レベルを下げたりすることが、一番やってはいけないことです。自分が伸びていくチャンスを自ら放棄してしまうこととなります。信念を持ってこの夏に努力し、確実に力をつけましょう。

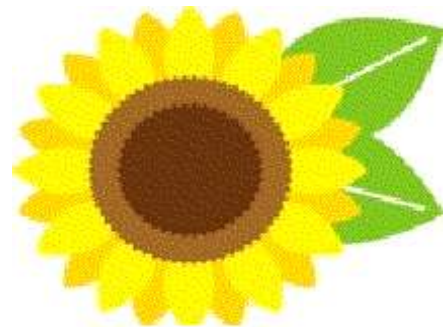
3年生は夏休みに入るとすぐに夏期講習が始まります。各自で予定を確認してください。40日間を通して、集中して学習に取り組みましょう。

*模試の結果を次に活かそう。判定内容に一喜一憂するのではなく、弱点の克服に利用しよう。

*過去問を眺めて、志望校の出題傾向の把握とその対策としての今後の学習計画を立てよう。教科の先生に相談するのも大切。赤本の貸し出しも大いに利用しよう。

*計画通りにいかないこともある。学習状況に応じて、柔軟に計画を見直すことが必要な時もある。自分の学習にとっての優先順位を考えよう。

*不安になったら「進路のしおり」の先輩の「合格体験談」を読もう。合格した先輩方のさまざまなアドバイスがよい刺激になります。



○ 共通テスト関連日程の確認

共通テストに関する今後の予定は以下のとおりです。3年生はしっかり確認して、決してミスのないようにしてください。

また、1・2年生も今後の参考にしてください。

9月7日(水) 6校時 共通テスト説明会

※「受験案内」(志願票)を配布します。

9月8日(木)～ 検定料払い込み(各自で)

*窓口での払い込みのみ

9月14日(水) 「志願票」校内締切

※「志願票」には「受験教科・科目数」を記入します。したがって、この時までには志望校を確定させ、受験科目を大学のHP等で確認しておく必要があります。志望校は第二、第三志望ぐらいまで考えておきましょう。また、私大の共通テスト利用受験の科目内容も精査しておきましょう。

9月26日(月) 「志願票」発送(学校一括)

※全員分の「志願票」を学校で一括して送ります。高校生は個人での出願はできません。必ず学校からの一括出願になります。期限厳守です。余裕ある準備をしてください。

10月下旬 「確認はがき」到着

※「志願票」の記載が正確に登録されているかを確認するためのものです。

12月中旬 「受験票」到着

※受験会場が判明します。

◎共通テスト出願に際して、イヤホン不適合者や特別配慮申請を希望する人は、必ず担任の先生に相談してください。

○ 高大連携模擬講義(報告)

7月6日(水)、期末考査最終日の午後に、東京大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授の 野地博行 先生による模擬講義が実施されました。講義タイトルは「回転分子モーター ATP 合成酵素」。前半は、ご自身の研究内容をわかりやすく講義していただき、また後半は「0から1を生み出す方法」と題して、〈Creation〉の大切さをお話してくださいました。2年生全員と他学年希望者が受講し、熱心に聴講していました。日本生物物理学会の会長でもある野地先生の「文系と理系など、複数の分野を跨いでつなげていってほしい」「他分野に触れて刺激をもらう」といった言葉は、受

験勉強こそが学びであると狭い考えにとらわれがちな生徒にとって、「学ぶ」ことの本質を考えるよい契機となったことでしょう。また、複数の質問もあって、有意義で刺激的な時間となりました。

○ オープンキャンパス等への参加

オープンキャンパス、または大学合同説明会などのイベントへの参加は、1、2年生の夏の課題になっています。首都圏の主な国公立大学、および私立大学のオープンキャンパス日程はクラスに掲示してあります。事前予約が必要な大学もありますので、各大学のHPで確認してから参加しましょう。また、医療・看護系への進学を考えている人は、「1日医師体験」「1日看護体験」などに参加してみるといいでしょう。進路室前の廊下に案内ポスターが貼ってありますので、手順に従って申し込みをしてください。

3年生で地方の大学を受験しようと考えている人は、夏休みを利用して見学しておくモチベーションの上昇にも繋がります。ネットでの見学会などもよい刺激になるでしょう。

ここ数年、教育改革の一環で、大学もさまざまな改革を行っています。入試制度改革も毎年行われていて、受験科目の変更も少なくありません。また出願方法もネット出願という大学が増えていきます。大学そのものに関する情報はもちろんのこと、受験に関する情報も大学のHPやオープンキャンパスなどで早めにキャッチしておきましょう。

【今後の予定】

○ 終業式 7/15(金)

○ 夏期講習 7/19～8/25

学年ごとに予定が異なります。

○ 閉庁日 8/8(月)～8/12(金)

生活指導部からのプリントも確認しましょう。

○ 共通テスト説明会 9/7(水) 3年

人生における最初で最後の高1or高2or高3の夏休み。健康で充実した期間にしていきましょう!

何事にも前向きに挑戦を

東京都庁職員 42回生 相川 隆史

皆さん、こんにちは。42回生の相川と申します。私は東京都庁の職員です。しがない地方公務員ですので、綺羅星のごとき諸OBの皆様ほど誇れる経歴はありませんが、今後の皆さんの人生に少しでもご参考になればと思ってキーボードを叩いております。

私の職場は皆さんと同じ新宿にある都庁です。高校生の頃から現在に至るまで、ほとんどの期間を新宿に通学・通勤し、この街の変貌を眺めてきました。当時は今の南口周辺が大規模開発の最中で、殺風景な通学路でした。ちょうど都庁舎が建設中で、卒業アルバムを見ると建てかけの我が社（都庁職員はそう言います）の写真が載っています。

さて、高校時代の私は教員志望で、高校を卒業後代々木に1年通い（この世代は人数が多く、予備校浪人はスタンダードコースでした）、晴れて教員養成系の国立大学に合格しました。大学卒業後は夢がなって私立高校で楽しく世界史を教えました。3年であっけなく契約切れ。都立高校の教員も考えましたが、当時の都の地歴教員は150倍超えというあり得ない倍率でしたので、この道はもうきれいさっぱりと諦めました。

そこでこの先何をすべきか悩んだ末、生まれ育った東京の役に立てればと都庁を目指すことにしました。この時が人生で一番勉強しました。何しろ公務員試験のことなど全く知らないのに選考までわずか3カ月、就職氷河期の真っ只中で失業保険を受けながらの受験でしたので、ここでまた浪人でもしようものなら文字通り路頭に迷うのは明らかでしたから。

必死の努力の甲斐もあり、何とか選考を通過して都庁に入ったのが27歳の春です。ほっとしたのも束の間、新人の私に出された辞令は、遠く離れた三宅島の教育委員会出張所での勤務でした。都には伊豆七島や小笠原諸島も含まれるので、島勤務は珍しくないのですが、同期の人達は「年老いた親がいる」とか「結婚を控えている」とか適当な口実で断っていたのだとか。しかし、不安を胸に赴任した三宅島での生活は、雄大な自然と楽しい仲間にも恵まれ、慣れないお役所仕事に悪戦苦闘する私を大いに満足させてくれました。

ところがその翌年に事件が起こります。2000年の三宅島大噴火により、全住民が島を脱出し本土に緊急避難したのです。もちろん子供たちも例外ではなく、小中高生の全員が親と離れて寄宿舎がある都立高校内に避難し、授業を受けながら泊まりで長期の集団生活を送るという異例の事態となりました。教育委員会の私も着の身着のまま一緒に避難し、寝食を共にして学校兼避難所の立ち上げに奔走することに。現場からの様々な相談や不満、マスコミ対応、膨大な支援物資の受入などが一遍に降ってきて、怒涛の1年となりました。

…そんな形で三宅島から始まった私の都庁人生ですが、その後も様々な職場を経験し（都庁では2～3年で全く異なる部署へ異動します）、今では管理職として職場をマネジメントする立場になりました。改めて思うのは、都庁が、学歴・性別に関係なく、また私のような途中から転職で入った職員でも、やる気と実力さえあれば責任ある仕事を任せてくれる職場だということです。紆余曲折ありましたが、この仕事について良かったと思っています。

在校生の皆さんには、「何事にも前向きに挑戦を」という言葉を送ります。これは私が教員時代に生徒へ伝えていた言葉でもあります。若い皆さんの頭上には無限の可能性が宿っています。結果は後からどうとでもついてきますし、やり直す時間も十分あります。ぜひご自分の可能性を信じて、失敗を恐れずチャレンジしてってください。そして、もし良ければ将来チャレンジする選択肢の一つとして都庁職員も加えていただければ幸いです。高校時代を過ごした街で、力試しをしながら歳を重ねるのも悪くはないですよ。

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）